令和６(2024)年度　特別推進研究　審査結果の所見

研 究 課 題 名	イネ NLRome-病原菌エフェクター相互作用の全貌解明と育種利用
研 究 代 表 者	寺内　良平（京都大学・農学研究科・教授）
審査結果の所見	【学術的意義、期待される成果】 　本研究は、植物の病原菌に対する抵抗性を促進するエフェクターと、イネの NLR 型受容体タンパク質が認識する機構の 50 種以上の新たな組合せを特定し、その分子機構を明らかにして、体系的に理解することを目指すものであり、イネを主要なモデルとして使用しつつ、他の作物の病原菌抵抗性のメカニズムにも応用可能で意欲的な提案である。加えて予備データも多いことから、実現可能性は高い。応募者の世界をリードするこれまでの実績と国際共同研究を基に、世界的な作物の病原菌認識機構を解明できれば、抵抗性品種の開発、農薬の使用量削減、気候変動への対策といった波及効果も期待される。